地域・コミュニティ活動助成

NPO法人 かがやけ安八

岐阜県安八町

地域の空き家「みのむしハウス」を活用して、子どもたちの健全な育成と交流を図る活動

活動エリア

2021年6月、「みのむしハウス」の正式開所に先駆けてオープンした、昭和レトロの雰囲気を演出した駄菓子売り場

団体設立経緯

かがやけ安八は、2018年11月に設立された歴史の浅いNPO法人です。当時、安八町は岐阜県内42市町村の中で唯一NPO法人が存在せず、さまざまな社会問題を抱えながらも民間主導の活動は乏しく、行政依存度の高い体質の町となっていました。

さらに大手企業の撤退が相次ぎ、町の財政状態が非常に厳しい状況に置かれるなかで、これからのまちづくりを官主導から民間主導に舵を切るべく、有志が集まり立ち上げました。

活動概要と活動対象範囲

通学路沿いの空き家を子どもの居場所「**みのむしハウス**」に改装し、以下3つの活動を町内在住の小中学生、およびその家族を対象に実施しています。

1. 定期的に**子ども食堂**を開催し、地域の食材を使った食事を子ども1食100円で提供します。

2. 駄菓子屋を併設し、買い物や仕事体験の場を通してキャリア教育を実施します。

3. 多世代交流拠点として地域のシニアの方々に協力を仰ぎ、さまざまな体験を提供します。

活動に至った理由や背景

日頃、高齢者向け配食サービス事業でかかわりの深い行政福祉課との打ち合わせのなかで、下校時間になると家庭の諸事情で行き場を失った子どもが町役場に集まってくることを聞かされ、「未来を担う子どもたちが、心から安心して過ごせる居場所をつくってあげられないものか」と考えるようになりました。

また、若者のボランティア活動が不毛の当町において、地域の大人が子どもたちに対してお手本となる行動を見せられる場の必要性を感じ、今回の活動に至りました。

活動内容と成果

●みのむしハウスの開設準備（2021年4月～6月）

6月の開設に向けて、無理のないスケジュールを立てて準備を進めました。築45年が経過し10年近くも空き家だった物件は傷みがひどく、まずは修復や改修工事から着手しました。しかし、電線の引き込み工事や外構工事、屋根の修復やテレビアンテナの取り付けなど、多額な費用が必要となることがわかりました。そこで可能な限りNPO会員による手作業の改装で経費を抑え、不足分はクラウドファンディングで資金調達することになりました。

●クラウドファンディングの実施（4月～5月）

改装費用と壁画制作費用（後述）の調達のため、4月中旬から5月中旬の1カ月間、インターネット上でクラウドファンディングを実施しました。目標調達金額を230万円に設定し、活動趣旨を解説した資料を片手に町内外の企業を100社以上まわりました。

資金を支援いただいた企業には、店外の看板に協賛企業として社名を記載するリターンを用意しました。地道な努力が実り、目標金額の調達に成功しました。

●ストリートアート（壁画）の制作依頼

外壁に落書きが目立ったことから、再塗装を考えていました。子どもたちが毎日目にする通学路に面していることから、安八町在住で世界的に活躍しているストリートアーティストRoamCouch（ロームカウチ）／小川亮氏に、子どもたちが夢を持てるような壁画の制作を依頼しました。小川氏は趣旨に賛同され、無償で引き受けてくれることになりました。

●駄菓子屋の開店（6月5日）

子どもの居場所「みのむしハウス」の正式オープンに先駆けて、シニア世代も楽しめるよう、昭和レトロの雰囲気を演出した駄菓子売り場を先行オープンしました。12時の開店時には100人以上の行列ができ、普段は閑散とした施設周辺が人であふれかえるほど混雑しました。急遽、施設内外での密を防ぐため入店人数を4人までに制限し、整理券を配布して対処しました。その他マスクの着用、検温、手指の消毒など、感染防止対策を徹底しました。

来店客層は小学生が7割、中学生が2割、大人が1割で男女比は半々でした。「こういう場所が欲しかった」と、多くの子どもや大人から感謝の言葉をいただきました。

●相次いだテレビ、新聞、雑誌の取材（6月～11月）

広く活動内容を知っていただくため、広報活動にも力を入れました。SNSの活用はもちろんのこと、テレビ局や新聞社などにニュースリリースを作成して発信しました。その結果、NHKや民放各局、地元ケーブルテレビ局、新聞社や地域の広報誌、フリーペーパーに至るまで短期間でさまざまな取材を受け、地域内外から多くの反響を得ることができました。

また他団体からの視察も相次ぎ、美容室からの無償ヘアカットや農家からの野菜提供の申し出など、支援の輪が一気に広がりました。

「みのむしハウス」（上）の改装費用はクラウドファンディングで捻出した。資金提供した企業は、外壁の看板に社名を記載

駄菓子売り場の先行オープン時には100人以上の行列ができ、入場制限するほどだった

●ストリートアート（壁画）の現地描画（7月）

約4カ月間の制作期間を経て、小川亮氏によるストリートアートが描かれました。小川氏のアートはステンシルという型紙と200色を超えるスプレー塗料を使った特殊な技法のため、通常の制作期間は半年近くを要しますが、地元の子どもたちのためにと最優先で取り組んでくださり、7月19日に完成しました。当日はテレビのニュースで放送されるほど注目を集めました。

現在、子どもたちはもちろんのこと、小川氏のファンや地域の方々など多くの人が訪れるインスタスポットとしてにぎわっています。

●みのむしハウスの開業と仕事体験の実施（8月）

壁画が完成したことから、8月1日にみのむしハウスを正式に開業しました。まずは小学生を対象にした仕事体験を開始。希望する子どもたちに駄菓子売り場を使って商品の販売や値付け作業などを体験してもらいました。体験時間に応じて「だがし引換券」がもらえる仕組みとなっています。

今後も子どもたち一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育をサポートできればと考えています。

地域在住の著名アーティストに、家屋の外壁の壁画制作を依頼、7月に完成した。ニュースにも取り上げられ撮影スポットに

小学生の仕事体験、駄菓子売り場で検品作業

七夕を皮切りに、子ども向けイベントも多数開催

12月に初開催した「子ども食堂」。用意した釜めし弁当60食は大好評のうちに完売

●子ども食堂の開催（12月）

12月5日に1回目の子ども食堂を開催しました。メニューは地域の食材をふんだんに使った釜めし弁当で、子ども100円、大人300円で計60食販売し、大好評を得ました。

釜めしの製造は、日頃NPOの事業として行っている高齢者向け配食サービスの厨房で、同じく事業として手がける宅配釜めしのノウハウと設備を活用して、本格的な商品に仕上げました。日曜日ということで親子連れでの購入が目立ちました。2回目は同月26日にメニューや価格は前回同様で実施し、50食を完売しました。

【仕事体験の内容】

・接客、レジ操作、袋詰め
・商品の検品、値札貼り
・商品の発注、陳列
・新商品の導入とPOP作成
・かき氷の製造販売
・わた菓子の製造販売　など

●イベントの開催（7月～12月）

コロナ禍により多くの学校行事が中止となる中で、子どもたちに楽しい思い出をつくってもらおうと、さまざまな体験を提供しました。

・七夕笹飾り体験（7月）
・NPO農園でのサツマイモ掘り体験（10月）
・クリスマスリース作り体験（12月）
・福袋が当たる年末大抽選会（12月）
など

特にクリスマスリース作り体験には連日たくさんの小中学生が参加し、用意された材料を使って思い思いのリースを楽しそうに作っていました。リースの土台には、10月に開催したNPO農園でのサツマイモ掘りで出たイモツルを有効活用しました。完成したクリスマスリースは子どもたち本人に持ち帰ってもらったほか、地域の高齢者120人にプレゼントしました。

子どもの頃に地域での楽しい思い出を積み重ねておくことは、大人になって故郷に思いを馳せる上で欠かせません。過疎の進む地域だからこそ必要なことだと考えています。

●子ども食堂の開催（12月）

12月5日に1回目の子ども食堂を開催しました。メニューは地域の食材をふんだんに使った釜めし弁当で、子ども100円、大人300円で計60食販売し、大好評を得ました。

釜めしの製造は、日頃NPOの事業として行っている高齢者向け配食サービスの厨房で、同じく事業として手がける宅配釜めしのノウハウと設備を活用して、本格的な商品に仕上げました。日曜日ということで親子連れでの購入が目立ちました。2回目は同月26日にメニューや価格は前回同様で実施し、50食を完売しました。

●行政、社会福祉協議会との連携

行政の長である町長と、定期的に意見交換の場を設けてもらえることになりました。活動状況や課題を直接伝えるなかで、子ども食堂への助成や食材の提供など継続的な支援の獲得へとつながりました。

また、行政福祉課や社会福祉協議会とも月に1度の頻度でミーティングを持ち、情報を共有しながら官民が連携する取り組みへと発展させています。

●議会との連携

町議会議員に向けて活動内容をプレゼンし、理解と協力を求めました。その結果、施設を運営するなかで噴出する課題を議会に諮ってもらうなど、スピーディーな課題解決に向けた仕組みを構築することができました。

議員の中には、自身の活動報告書で「みのむしハウス」の取り組みを紹介してくれるなど、惜しみなく協力してくれる方もいます。子どもたちのためにと私たちNPOだけが頑張るのではなく、地域全体を巻き込んだ活動にすることが大切だと考えています。

●見守り活動

開業時の下校時間には、見守りを兼ねて子どもたちに積極的に声を掛けるようにしています。近隣小学校の校長先生や教員とのコミュニケーションも図れており、良好な協力関係が築けています。

●コロナ禍による休業

21年8月23日から10月1日までと22年1月17日から3月26日までの2期間、コロナ禍により休業しました。

活動状況を発信する会報「みのむし通信」で幅広い支援を募る。**右の写真**は2号店候補の空き家

課題と解決方策

【課題1】本当に支援が必要な子どもとのコンタクト

本当に支援を必要とする子どもとのコンタクトに苦労しています。子どもの貧困は表出しにくいため、見た目ではまったく分からず、子ども食堂を開催してもどこまで支援につながっているのかわからないのが悩ましいところです。

しかし確実に貧困世帯は存在しますので、今後は行政や社会福祉協議会、民生児童委員らとの連携を強化し、緊密な情報共有の中で支援対象の子どもを見つけ、働きかけていきたいと考えています。

【課題2】活動資金の確保

みのむしハウスの運営には、家賃や光熱費、商品の仕入れ代金など毎月10万円以上の経費が発生するため、安定的な資金調達が不可欠です。現在はNPOで行っている他の事業収益で補填していますが、活動を継続していくためには、足腰の強い自立した運営体制の確立が重要です。そのために、設立時に支援をしてくれた企業や個人に向けて、活動状況を「みのむし通信」という会報で発信し、継続的な支援につなげていこうと考えています。

今後の予定

みのむしハウスが安八町の南部に位置していることから、普段利用できない北部の子どもたちから数多くの開設要望が寄せられています。それに応えるため、現在、駄菓子屋を併設した子どもの居場所2号店の計画を進めています。

今回の助成活動を通して得られたノウハウを活かし、課題を改善し、そして何よりも出会った人たちとの絆を大切にしながら、さらに充実した施設を開設して地域社会に貢献したいと考えています。

特定非営利活動法人かがやけ安八

2018年11月法人設立／メンバー数：25人／代表者：辻 直人（つじ・なおと）
●〒503-0115　岐阜県安八郡安八町南今ケ渕1250
☎0584-64-3271　FAX 0584-47-5782　✉npoanpachi@gmail.com
peraichi.com/landing_pages/view/gx4ao/
www.facebook.com/NPOANPACHI/

私たちは地域社会との共創共栄を図り、顧客のよりよい生活実現のために奉仕します。創意工夫と挑戦の精神をもって、活力ある風土をつくります。